

重点施策(シンボルプロジェクト)

持続可能な地域の実現をめざして掲げた将来像と基本方針を踏まえて、基本目標(施策の大綱)・中・小目標を体系的に示し、小目標ごとにめざす姿の実現を図りますが、細かい分野に捉われず大きな方針として、前期基本計画期間中にとりわけ重点的に取り組む4本の柱をシンボルプロジェクトと位置付けます。

それぞれのシンボルプロジェクトは、今後、市が持続可能なまちをめざす上で重要な取り組みとなります。

1 「あたたかい暮らしを守る」プロジェクト

【主な取り組み】

- 互いの声かけや見守りによるあたたかい福祉の地域づくり
- 健康意識の向上、スポーツや趣味を通じた心身の健康づくり
- 多様なニーズ・成長に応じた保育・教育の提供
- 地域に応じた移動交通手段の確保、物やサービスを移動させる方法の検討
- 定住促進重点地区の位置づけと重点的な支援



2 「資源を活かした循環型の経済をつくる」プロジェクト

【主な取り組み】

- 良好な自然環境、歴史資産、景観の保全と活用
- 丹波篠山ブランドの維持・向上と継承
- 豊かな資源の強みを活かした滞在型の観光振興
- 豊かな資源を活用した起業・継業の促進
- 自然エネルギー・再生可能エネルギーの活用



3 「まちづくりの人財をはぐくむ」プロジェクト

【主な取り組み】

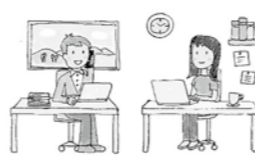
- さまざまな分野の担い手育成支援
- 多様なつながりづくりと関係の深化
- 話し合いと学び、協働のプラットフォームづくり
- 新たな実践活動の促進と展開支援
- 未来の丹波篠山市を語る仕組みづくり



4 「地域を支える基盤をつくる」プロジェクト

【主な取り組み】

- まちづくり協議会への支援の充実
- コミュニティの拠点づくりとネットワーク化
- 東の玄関口の活性化
- 西の玄関口の活性化
- 仕事や暮らしを支える情報基盤の充実



どんな「丹波篠山市」にしていきたい？



第三次

丹波篠山市総合計画(概要)

人口減少が進む丹波篠山市。安全安心な暮らしを守り、まちの活力を維持するために、福祉や教育、自然環境や農業、商工業や観光、景観、伝統文化などさまざまな分野で積極的な取り組みが求められています。それらの課題に分野横断的に取り組んでいくために、めざす将来像や取り組み方針などを示す「総合計画」を策定しました。今後10年間、市民・事業者の皆さんと一緒に取り組んでいきます。

総合計画とは…

これからの丹波篠山市をどのような「まち」にしていくのか、そのためにどんなことをしていくのかを総合的・体系的にまとめたもの。まちづくりの指針となり、市のさまざまな計画の中でも最上位の計画です。

計画期間と構成

- 基本構想
令和3～12年度
- 基本計画
(前期)令和3～7年度
(後期)令和8～12年度

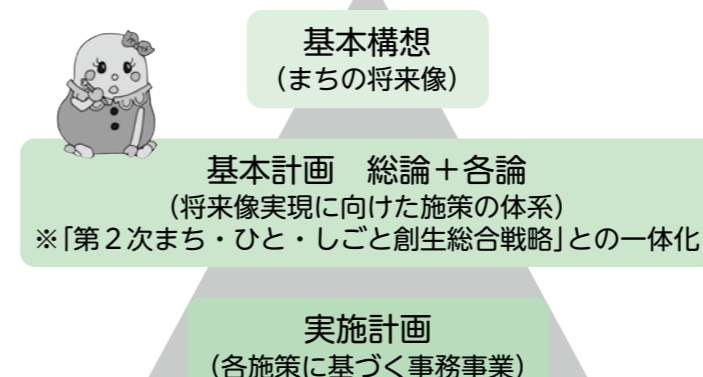
計画策定の目的

「歴史や伝統」「人権・平和・環境」「市民協働による自治」など、これまでの取り組みをさらに磨き上げるとともに、人口減少下にある本市をとりまく状況の変化に対応するため、市として新たなまちづくりに踏み出そうとする“これから”の方向性を示します。

計画の役割

地方創生の趣旨を踏まえた市政運営の総合的指針、市民活動・参画のガイドライン、本市のまちづくりの姿勢を明示します。

丹波篠山市自治基本条例



分野別の行政計画

※福祉や教育、環境、景観など行政のそれぞれの分野における、より具体的な個別計画。



社会潮流の変化と市の課題

人口減少と人口構造の変化

令和2年1月時点の日本国内の日本人は約1億2,427万人で、前年から過去最大の約50万5千人が減少。減少は11年連続で、1年間の出生数が、過去最少を更新したことが大きく影響しました。

市では、全国平均より早い平成13年頃から人口減少の時期を迎えています。市民の生活を守り、若い世代の転出を抑制、Uターンを誘うような取り組みが必要です。



新型コロナウイルス感染症の流行と生活様式の変化

新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人の接触機会が減り、生活を支えるサービスと経済活動が制約されました。市でも、市民一人一人が日常生活において新たな生活様式に対応し、感染から身を守るための行動や感染者への配慮を心がけること、感染リスクによる社会への影響に迅速に対応する必要があります。

安全・安心への関心の高まり

日本各地で大規模な自然災害が起こる中、国民の安全・安心に対する関心が非常に高まっています。避難情報など適切な判断が求められるとともに、さらなる自助や共助が重要で、常に危機意識を持ち、有事を想定した予防と、人口減少社会の到来や急速な高齢化の進行といった課題を抱える中、市民連携による態勢づくりが求められます。



働き方の多様化と田園回帰の動きの高まり

若い世代を中心に、物質的・経済的なゆとりだけでなく、心の豊かさや安らぎ、ゆとりのある生活に重きをおきたい、という人の割合が大きくなっていて、起業や多業など多様な働き方が注目されています。また、価値観の多様化から、都市部から地方に生活の拠点を移す「田園回帰」の潮流が高まっていて、市でも注目されています。

科学技術の進歩

ICT技術や人工知能(AI)、ロボット技術(RPA)などの新たな技術導入が、日常生活におけるさまざまな分野で助けとなるとされていて、国でも、デジタル化社会の構築をめざした議論が進められています。市でも、農業や観光の分野、行政サービスの分野など、今後の導入に注視し、デジタル化を推進する必要があります。



社会インフラの老朽化

地方自治体では、公共施設などが老朽化し、その大規模修繕や建て替えを行う大量更新の時期を迎えます。一方、長期的な人口減少による税収の減少など、より厳しい財政状況が続くものと予想されます。市でも、生活基盤の充実や地域活性化のためにさまざまなインフラ設備や公共施設を整備してきましたが、これらは順次更新時期を迎えようとしています。このため、長期的視野で更新、整理、統合、長寿命化による施設の最適配置が必要です。



SDGsの取り組み

平成27年に国連で採択された「持続可能な開発のための目標(SDGs)」において、「誰一人取り残さない」持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現をめざすことが示されました。地方自治体における推進目標は、コミュニティの再生、人口減対策、教育、雇用対策、人材活用、環境対策、防災などの分野になると考えられます。市でも、これらの目標を地域の实情に照らして総合計画に則って推進することが重要です。

これまでの地域づくり、まちづくり

市民一人一人が元気に笑顔で暮らせるように、ご近所付き合いや自治会、まちづくり協議やNPO、企業、学生などの活動によって地域が形づくられ、守られてきました。

自治会の19の地区は、農村部、新たな住民が増えた地区、城下町や宿場町など、さまざまな特徴があり、地域ごとに違った課題があって、その解決のためにさまざまな取り組みがされてきました。

まちづくり地区における住民活動

- ・住民運行による高齢者等の移動手段の確保
- ・青パト隊による見守り活動
- ・いきいき体操
- ・統合後の旧小学校舎を活用する取り組み
- ・都市部住民との交流による活力維持
- ・地域おこし協力隊の受け入れと支援
- ・高校生・大学生連携による地域おこし活動
- ・丹波篠山暮らしお試し住宅の運営 など

NPO、企業、学生などによる地域活動

- ・健康増進、地域福祉向上のための活動
- ・民設民営の児童クラブの運営
- ・在住外国人支援など多文化共生社会推進活動
- ・高校生、大学生による地域との連携活動
- ・観光客のためのガイド活動
- ・防災の知識等をひろめる活動
- ・古民家再生・活用事業
- ・地域の獣がい対策支援活動 など

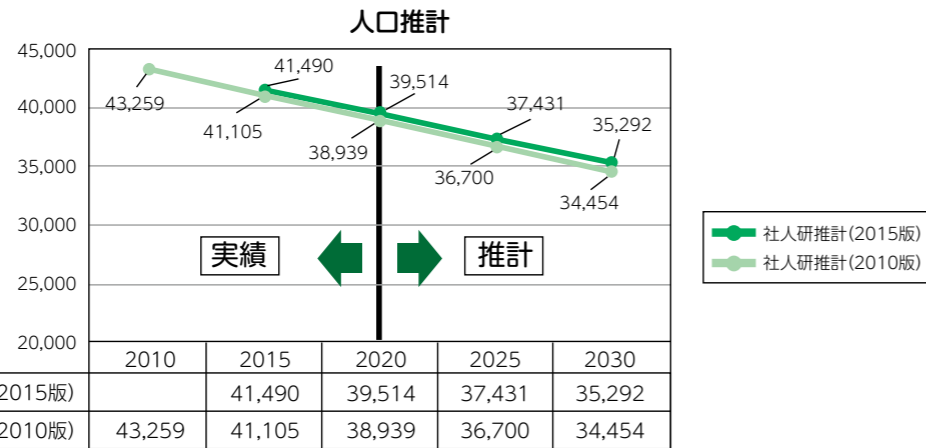
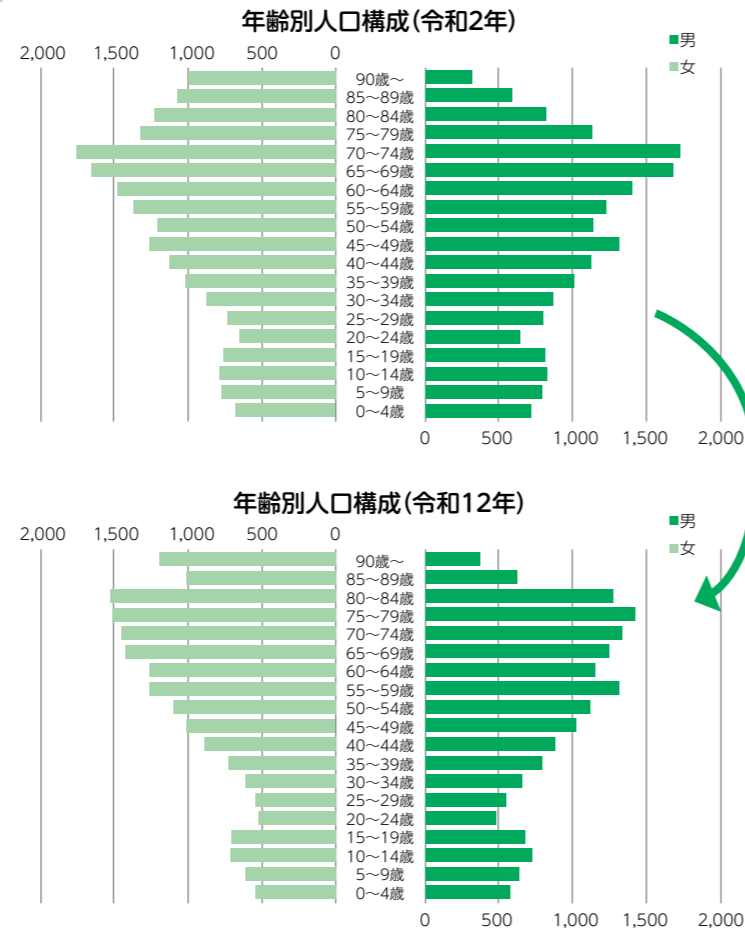


将来の見通し

人口の見通し

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計によると、10年後の2030年で35,292人となる見込みであり、人口減少を前提としたまちづくりや地域づくりを心がけることが引き続き重要です。減少の速度を緩やかにすること、そして、人口が減少してもまちの活力を維持し続け、みんなが元気に暮らせるまちづくりをすることが今後のポイントとなります。

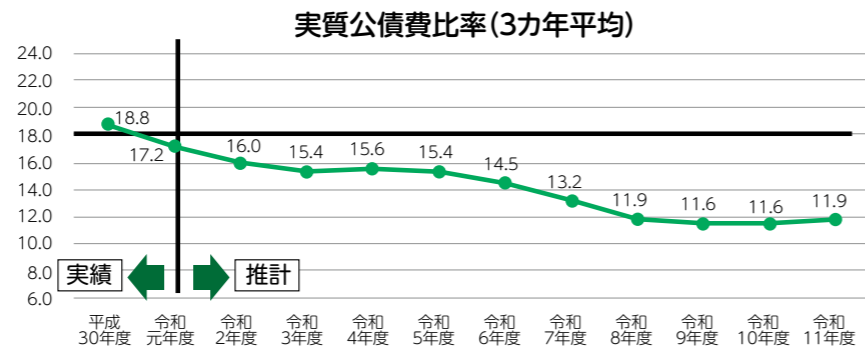
また、「交流人口」さらに「関係人口」の重要性が注目されており、まちに活気をもたらす人たちとして、いずれも貴重な存在です。市でも、引き続き「定住」の促進とあわせて、「交流人口」や「関係人口」の増加に向けて取り組む必要があり、人口減少社会の中であっても活気あるまちづくりを進めることが重要です。



財政の見通し

「篠山再生計画」では、当初、歳入歳出の収支バランスがとれるのが令和2(2020)年度になると見込まれていましたが、計画よりも1年前倒しとなりました。

このように一定の改善は見込まれてきましたが、全国的には高い水準が続くことから、引き続き財政の健全化に努めます。



将来像と基本方針

将来像

市がめざす、市民が「幸せ」と感じられるまちづくりとは、利便性や経済性を追求した都市的なまちづくりばかりではなく、「農」と「食」を基盤として、地域資源を大切にすまちづくりです。これからも私たちは、日本の原風景と誇れる優れた景観やふるさとの豊かな自然を守ってきた「食と農の都」として、まちづくりに取り組みます。

「丹波篠山」だからこそ、ここに関わる一人一人が安心できる暮らしの中で夢や未来を実現するチャンスがあるまちとして選ばれるよう、めざす将来像を次のとおりとします。

「丹波篠山」だからこそ実現できる
あなたの夢・安心・未来

基本方針

市が「活気を保ち続けられるまち」であるために、基礎となる農村集落の暮らしを維持しながら、丹波篠山だからこそできるまちづくりに取り組みます。

1 多様で複層的なコミュニティづくり

高齢化や後継者不足などによって、コミュニティの維持が難しくなっています。地域を維持していくためのさまざまな分野で、これまでの皆さんの活動を基礎としながら、多様な担い手と新しいコミュニティの場づくりに取り組みます。

2 チャレンジと支え合いの土壌づくり

市では、従来からの担い手のほか、新しい活動主体が生まれつつあります。人々が新しいことを始められ、仮に失敗しても許される、寛容かつ応援するような雰囲気を醸成していきます。

3 環境との共生と経済が循環する暮らしづくり

人々の日常の暮らしは、「人」「社会」「環境(資源)」がバランスを保ちながら受け継がれ、この地の環境とともに生きてきました。守ってきたものを上手に、かつ持続的に活用し、地域の資源と経済をうまく循環させる仕組みをつくります。

6つの基本目標(施策の大綱)

ありたい将来の姿

5 市民と行政が手をたずさえて取り組むまちづくり

【行財政運営】

- ①ほしい情報が双方向につながるまち
- ②効果的・効率的な行政サービスを提供できるまち



6 丹波篠山ブランドを創り、活かすまちづくり

【ブランド創造】

- ①ブランドを創造し、磨き上げるまち
- ②ブランドの情報に触れられるまち



3 地域に根ざした産業とうるおいのあるまちづくり

【環境・農業・観光・商工業】

- ①資源を活かした持続可能なまち
- ②農業を磨き、つなぐまち
- ③観光資源を活かしてうるおうまち
- ④地域に根ざした商いでにぎわいをつくるまち



【景観・歴史・文化】

- ①良好な景観と調和した空間のあるまち
- ②伝統を継承し活かすまち
- ③文化芸術に気軽に親しめるまち

4 良好な景観や伝統文化を大切に継承し、活用するまちづくり



1 市民が主役で暮らしの質を高めるまちづくり

【コミュニティ・人・暮らし】

- ①市民が主体でつくるまち
- ②安全で暮らしの環境が整ったまち
- ③生活の基盤が整ったまち



2 すべての人が尊重され、生き生きと暮らせるまちづくり

【福祉・健康・子育て・教育】

- ①あたたかい心があふれるまち
- ②健康に生き生きと暮らせるまち
- ③子育て・子育ての環境が整ったまち
- ④子どもから大人まで学び続けられるまち



暮らしのイメージ

未来の丹波篠山を形づくるのは、おいしい農産物やきれいな城下町、自然景観などに加えて、そこで暮らす人々の「つながり」です。

人と人のつながりを大切にして、一人一人が主役になり、未来の丹波篠山市をみんなでつくっています。

- 笑顔があふれる、あたたかい人のつながり
- 「農」の暮らしを支えるコミュニティ
- 次の世代へと語り継ぐ、人々の暮らしと伝統
- 風景や思い出の継承
- 都市・海外との交流・つながり
- 新しい暮らしの創出



土地利用のイメージ

脈々と受け継がれてきた商工業、居住、交通、レクリエーションなどの都市機能を「農」と調和する形で内包・共存させたまちとして、「農」が培った環境が、いつも人々の暮らしに息づく空間”を継承し、美しい田園景観の中で活力を創造するまちづくりをめざします。

- 農の都の基盤となる自然・田園風景を将来にわたり継承します。
- まちの機能や土地利用を秩序立てて配置します。
- 田園や歴史的なまちなみなどの資源を活かし、暮らしの発展へつなげます。
- コミュニティを大切に地域主体の土地利用を推進します。



暮らしの空間と生活圏域のイメージ

城下町の区域とJR篠山口・丹南篠山口ICを中心とした新しいまちの区域の二つの都市核と特徴ある19のまちづくり地区を中心に、少子高齢化、担い手不足の課題を踏まえた暮らしの空間をつくっていきます。また、鉄道や高速道路、3本の国道などで、市外につながる玄関口機能を活かした生活圏域づくりをめざします。

